

授業科目(ナンバリング)	国家試験基礎演習 (DB310)			担当教員	梅野潤子、野田健、久田貴幸、 足立孝子、山下彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の類型
<p>この授業のねらいは、社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の各国家試験に合格するための学修習慣の確立と学修方法の習得にある。</p> <p>具体的には、受講生が国家試験受験に向けた学修習慣を身に付け、グループ学修を実践し、確実に得点するための問題の解き方を理解・会得することを目指す。また、確認テストを通して、各自の実力を把握することができるようにする。</p> <p>なお、この授業は、各国家試験合格支援科目の基礎科目に位置づけられる。そのため、この授業では、4 年次以降に行われる各国家資格別・試験科目別の合格支援の前提となる、国家試験を受験するための共通の知識と技術を学ぶことを意図している。</p>							⑧⑨
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の各国家試験合格に必要な専門知識の基礎部分を習得し、模擬試験における得点に結びつけることができる。				学力テスト 確認テスト	15% 60%	
情報収集、 分析力	グループにおいて受講生が相互に教え合うために、必要な専門知識を収集・分析し、その成果をグループ学修において提供することができる。				グループ学修への参加度	15%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	各国家試験受験のための学修計画を立てて実施し、定期的に知識・技術の習熟度を確認し、改善を図るという一連のPDCA サイクルによる主体的な学修習慣を身に付けることができる。				授業態度等	10%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>学力テスト (15%)：第3回授業において国家試験と同じ形式で行い、持ち込みは不可とする。出題数・範囲等は授業内で説明する。確認テスト (60%)：形式は学力テストと同様で行い、グループ学修による各科目の習熟度を確認する。第6・9・12・15回で実施する。グループ学修への参加度 (15%)：配属されたグループにおける協働学修への貢献度を評価する。授業態度等 (15%)：主体的に学修しているかを評価する。また随時、学修に関する面談や学修進捗状況アンケート等を実施する場合があるが、それに対する取り組み姿勢も評価の対象とする。</p> <p>フィードバック：基本的には授業中またはmanabaを用いてフィードバックするが、場合に応じて面談を実施する。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>授業では、社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の各国家試験を受験するために共通に求められる知識と技術について学ぶ。まずは、受験のための動機付けや基礎知識を確認し、出題範囲や解法を学ぶために各国家試験に共通する7科目(医学、心理学、老化・認知症・障害、社会保障、公的扶助、介護保険、障害者支援制度)を範囲とし、配布資料をもとにグループ学修を行う。グループ学修の成果を測るため、單元ごとに確認テストを実施する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：指定しない。</p> <p>参考書：授業中に配布する。</p> <p>指定図書：前年度の各国家試験の問題とその解説</p>							
授 業 外 に お け る 学 修 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と							
<p>社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士国家試験予定者は、必ず履修すること。国家試験に合格するためには、学修習慣を身に付け、継続的に学修し、自律的に学修を行っていく強い意志と実行力が求められる。様々な学修方法を試したり、各種参考書を比較検討して自分に合ったものを選んだり、受講生同士で受験に関する情報交換を行ったり、教員に質問をしたりするなど、積極的かつ能動的な取り組みを期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	全体オリエンテーション	この授業のねらいや進め方、各国家試験合格支援に関する説明を行う。また、目指したい福祉士像や国家試験合格の意気込みを明確にする。(梅野)	予・復) 合格支援の全体像を理解し、合格するための動機を明確にする。
2	資格別オリエンテーション	各国家試験の科目・合格基準・受験日程などの概要を理解する。(梅野・久田)	予) 各国家試験の概要を調べる。 復) 自分自身の学修プログラムを立てる。
3	学力テスト	社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士に関する学力テストを実施し、現時点でのレベルを確認する。(梅野・久田)	予) 学力テストに備えて学修する。 復) 学力テストの復習。
4	医学・心理学 グループ学修①	医学・心理学関連の受験科目の学修にグループで取り組む。(足立・野田)	予) 学修範囲を自己学修する。 復) グループ学修で分からなかった点を復習する。
5	医学・心理学 グループ学修②	医学・心理学関連の受験科目の学修にグループで取り組む。(足立・野田)	予) 学修範囲を自己学修する。 復) グループ学修で分からなかった点を復習する。
6	医学・心理学 確認テスト	医学・心理学関連の受験科目の学修成果を、テストを通じて確認する。(足立・野田)	予) 確認テストに備えて学修する。 復) 確認テストの復習。
7	社会保障・公的扶助 グループ学修①	社会保障・公的扶助関連の受験科目の学修にグループで取り組む。(野田・山下)	予) 学修範囲を自己学修する。 復) グループ学修で分からなかった点を復習する。
8	社会保障・公的扶助 グループ学修②	社会保障・公的扶助関連の受験科目の学修にグループで取り組む。(野田・山下)	予) 学修範囲を自己学修する。 復) グループ学修で分からなかった点を復習する。
9	社会保障・公的扶助 確認テスト	社会保障・公的扶助関連の受験科目の学修成果を、テストを通じて確認する。(野田・山下)	予) 確認テストに備えて学修する。 復) 確認テストの復習。
10	老化・認知症・障害 グループ学修①	老化・認知症・障害関連の受験科目の学修にグループで取り組む。(足立・山下)	予) 学修範囲を自己学修する。 復) グループ学修で分からなかった点を復習する。
11	老化・認知症・障害 グループ学修②	老化・認知症・障害関連の受験科目の学修にグループで取り組む。(足立・山下)	予) 学修範囲を自己学修する。 復) グループ学修で分からなかった点を復習する。
12	老化・認知症・障害 確認テスト	老化・認知症・障害関連の受験科目の学修成果を、テストを通じて確認する。(足立・山下)	予) 確認テストに備えて学修する。 復) 確認テストの復習。
13	介護保険・障害者支援制度 グループ学修①	介護保険・障害者支援制度関連の受験科目の学修にグループで取り組む。(久田・梅野)	予) 学修範囲を自己学修する。 復) グループ学修で分からなかった点を復習する。
14	介護保険・障害者支援制度 グループ学修②	介護保険・障害者支援制度関連の受験科目の学修にグループで取り組む。(久田・梅野)	予) 学修範囲を自己学修する。 復) グループ学修で分からなかった点を復習する。
15	介護保険・障害者支援制度 確認テスト 本授業のまとめ	介護保険・障害者支援制度関連の受験科目の学修成果を、テストを通じて確認する。また、本授業の振り返りをし、4年次からの学修につなげる。(久田・梅野)	予) 確認テストに備えて学修する。 復) 確認テストの復習。